

診断ひろしま

平成26年7月 第71号



■ 巻頭の言葉『開かれた新たな診断協会を築いていこう』	会長 岸本 実	2
■ トピックス『平成26年度通常総会 報告』		5
■ 随筆・見聞録『地元にプロチームがあるという幸せ』	古本 健次朗	8
■ 会員『診断士リレー訪問記』	黒川 睦郎	9
■ 新入会員紹介		10
■ 平成26年度 研究会活動計画		13
■ 平成26年度 委員会活動計画		18



一般社団法人 広島県中小企業診断協会

巻頭のことば

『開かれた新たな診断協会を築いていこう』

会長 岸本 実



平成26年6月7日の平成26年度「一般社団法人広島県中小企業診断協会」総会で新役員の選任が行われ、藤田前会長の後任として、小職が会長に就任することになりました。新副会長、新役員の方々と共に、諸先輩が築かれてきました当協会の良き伝統を継承すると共に、環境変化への対応・課題解決を図り、協会の発展に全力を尽くす所存です。

新体制の発足を機に、総会直後に会長・副会長、新委員長で協会の方向性や課題について真剣に熱い議論をし、優先課題として協会のビジョンを描くことが合意され、現在、審議を進めている所です。その議論のベースとなるものは、会員、外部関係機関、支援先企業の当協会に対する期待と、会員診断士、外部機関・支援先企業を取り巻く環境変化です。

当協会会員は、独立診断士55%・企業内診断士38%・企業経営7%、地域では西部83%・東部15%・北部2%、性別では女性5%・男性95%で構成され、平均年齢55.5歳、入会平均14年、となっています。会員の立場によって自ら目指すところ、協会への期待も異なります。機会を見つけて多くの方々から意見を頂戴していきたいと考えております。

経済のグローバル化の進展、少子高齢化の急速な進展、アベノミクスに代表される、国の施策の展開などで、中小企業を取り巻く経営環境の変化は激しさを増しています。それに伴い、公的支援機関からの派遣要請件数の増加、金融機関・士業団体から新たな連携事業の話も出るなど、診断協会・診断士に対する期待・支援ニーズは高まっています。また、中小企業の海外展開の支援など、新たな分野の支援ニーズも出てきています。診断協会としても、環境変化に目を向けながら、関係機関との事業連携の輪を強め、深めていきたいと考えています。

外部関係機関・支援先企業の期待に確実に応えて行くことは、協会・診断士の普遍的で重要な課題です。専門家として常に診断スキルの向上・リフレッシュが求められ、支援アウトプットの品質保証も求められます。協会の更新研修委員会、会員研修委員会、グループ研究委員会、受託委員会は、仕組み作りや各活動を通じて提案をしていきます。

協会ビジョンや課題抽出・課題解決の取組みについては、理事会で審議した上、広報委員会担当の広報誌、情報化委員会・事務局担当のホームページなどで、会員に展開を図っていきます。

会員には、積極的に協会の活動に参画し、活動を盛り上げ、意見を出して頂き、充実した活動にしていきたいと考えます。協会役員・会員が一体となって課題解決に取り組み、開かれた新たな診断協会を築いていきましょう。

『副会長就任の抱負』

副会長 西原 州康



昨年度に引き続き副会長を仰せつかりました西原州康と申します。至らない点が多々あると思いますが、岸本新会長をしっかり支えていきますのでご指導、ご協力をお願いいたします。

県協会は、平成24年4月2日に一般社団法人化して、2年間が経過しました。その間、法人格を持つことにより、様々な中小企業支援機関や自治体と直接契約することができ、会員の活躍の場が大きく増えてきました。また、平成25年7月に経営革新等支援機関に認定され、より高度な中小企業支援施策に対応できる体制を整えることができました。これらの強みを活かして、さらなる活躍の場を増やしていきたいと思っています。

県協会の目的は、「会員相互の連携を緊密にし、会員の指導及び資質の向上に努めるとともに、中小企業診断制度の普及と推進を図り、もって中小企業の振興と国民経済の健全な発展に寄与すること」です。これらは、大きく「会員の資質の向上」と「中小企業の支援」に分けられます。「会員の資質の向上」については、セミナーや研修会の開催、グループ研究会の活動に力を入れスキルアップを図って行きます。「中小企業の支援」については、中小企業支援機関からの受託事業を中心にし、厚生労働省や農林水産省からの受託にも新たにに取り組んでいきます。

広島県は自動車産業や造船業を中心にした製造業の町です。その下請の中小企業も、親企業の海外進出や外国企業との価格競争により、喫緊に変革を求められています。今こそ「中小企業診断士」が世の中に求められる時だと思っています。難しい国家資格に合格しても、「企業内診断士」としてその活用をされていない会員、非会員が数多くいます。その人達の活躍の場をつくることも県協会の大きな課題です。

最後に、県協会自身も変革しなければならないと思っています。新しい会員の増加や、新規の受託事業開拓、会員の積極的な協会活動への参加は大きな課題です。これらについても、理事を中心に県協会のあるべき姿を描き、変革に取り組んでまいります。これからも新体制の県協会にご支援、ご指導のほど宜しくお願いします。

『副会長就任の抱負』

副会長 田村 善光



今年度に副会長になりました田村です。どうぞよろしくお願いします。岸本会長を支え、県協会の地域での存在感を高められるように努力したいと思っています。

自己紹介をさせていただきますと、中小企業診断士の資格は平成12年に取得し、取得当時は企業内診断士で、その後独立しました。企業に勤務していたときにはほとんど社内中心の仕事であったため、独立したときに初めて中小企業の経営の実情を知り、かつ仕事は自分から取りに行かないとないことを身を持って痛感しました。その後、地域力連携拠点事業や応援センター事業のコーディネーターを担当する中で中小企業との接点を増やしてきました。

県協会は、過去における協会活動は協会内での活動が中心であったのを、前会長の時代に認定支援機関に認定されて地域の支援機関とのかかわり合いが拡大されたと感じています。これにより協会の財務状況は改善されてきたと思います。しかし、地域における存在感や財政状況はまだ十分でないと思っています。というのは、地域支援機関は東京等のコンサル企業に発注している例があり、協会活動は協会のボランティアに依存している面がまだあるからです。

このたび会長が代わられました。新しいトップのもとに県協会を変革する機会であると思っています。新会長のもとに、これから協会のビジョンや目指す姿を決めて、これの実現に向け、委員会等の活動とベクトルを一致させた活動を展開していけるようなれればと思っています。

県協会が地域におけるプロフェッショナルなコンサルタント集団としてレベルの高い支援ができると認知され、かつ会員が協会に属することにより得るものがあるように、微力ながら精一杯頑張っていきますので、ご理解とご協力をよろしくお願いします。

トピックス

平成26年度通常総会 報告

広報委員 落野 洋一

平成26年6月7日（土）14時30分よりチサンホテル広島において一般社団法人広島県中小企業診断協会（県協会）の通常総会を開催した。司会是三浦副会長が行った。会議に先立ち藤田会長より、次のような挨拶があった。

当協会が一般社団法人広島県中小企業診断協会となり2年が経過した。この間、事務所の移転、中小企業認定支援機関として認定を受けるなど、様々なことがあったが、会員の皆様の協力により、県協会としての体制整備も進んできている。

昨年度は、広島県信用保証協会から90件以上の診断依頼を受けるなど、これまで以上の事業受託を受けることができた。今年度は、広島市の「創業支援事業者補助金事業」を受託実施する予定であり、県協会として、今まで以上に多くの事業を実施していくことになる。

このように、当協会の認知度は向上しており、併せて、当協会における中小企業診断指導の期待は今までになく高まってきている。

続いて、会員の総数および出席者数の確認が行われた。総会員159名中、出席者は87名（含書面表決者）であった。本総会が定款第18条により有効に成立したことが確認されたことを受け、定款第17条の規定により藤田会長は議長席についた。

また、議事録署名人には渡辺理事、佐藤理事の2名を指名し、開会を宣言して議事に入った。

総会では以下4つの議案、「平成25年度事業報告（案）・正味財産増減計算書（案）」「平成26年度事業計画（案）・正味財産増減計画書（案）」「役員の選任に関する件」「その他」が上程され、全員異議なく承認可決された。

これを受けて新役員による臨時理事会が開催され、新年度の県協会会長に岸本氏が選任された。また、副会長は西原氏、田村氏の2名が選任された。

その後、引き続き同会場にて懇親会が開催された。以下の来賓をお招きし、例年になく多数の会員診断士との交流が活発に行われた。



広島県商工労働局経営革新課 課長 山崎 勸 様
広島市経済観光局産業振興部ものづくり支援課 課長 天野 博司 様
独立行政法人中小企業基盤整備機構中国本部 経営支援部 部長 山田 恵一 様
公益財団法人ひろしま産業振興機構 常務理事 高延 忠士 様
公益財団法人広島市産業振興センター中小企業支援センター 課長 椎木 明史 様
中小企業大学校 広島校 校長 岡田 俊 様
広島商工会議所 事務局次長兼中小企業振興部長 植野 実智成 様
広島県商工会連合会 地域振興課 課長補佐 越道 万里江 様
広島県中小企業団体中央会 専務理事 野北 和彦 様
日本政策金融公庫 広島支店 融資第四課長 松井 道彦 様
日本公認会計士協会中国会 中国会幹事 中原 晃生 様
中国税理士会 広島県西部支部連合会 会長 灘 博明 様
広島県行政書士会 会長 光宗 五十六 様
広島司法書士会 会長 末廣 浩一郎 様
広島県社会保険労務士会 会長 井出 邦良 様



平成26年度組織名簿

【 役 員 】

会 長	岸本 実		
副 会 長	西原 州康	田村 善光	
理 事	相川 哲朗	井上 明雄	江川 雅典
	岡 佳弘	小川 成洋	加藤 克敏
	小寺 崇之	佐藤 温彦	竹本 忠夫
	田辺 稔	畑井 謙一	増田 宣彦
	松浦 和夫	松浦 由浩	弓掛 元
	渡辺 敏明		
監 事	岩井屋 忠昭	大村 貞之	木村 武則

【 顧 問 】

顧 問	藤田 武志
-----	-------

【 各 委 員 会 】

委 員 会	委 員 長	副委員長	委 員	
総務委員会	畑井 謙一	渡辺 敏明	佐藤 温彦	田口 信義
			松浦 由浩	三浦 宏司
広報委員会	小寺 崇之	落野 洋一	川角 栄二	三本木 至宏
			西村 英樹	藤本 彰光
試験委員会	小川 成洋	木村 武則	青谷 義清	井上 明雄
			植田 昌子	大山 剛士
			加藤 一博	栗山 琢次
			水津 卓也	松浦 由浩
更新研修委員会	江川 雅典	弓掛 元	秋井 正宏	尾田 二郎
			佐々木 彰	野村 哲朗
			三宅 慶子	宮前 美方子
会員研修委員会	井上 明雄		榎 志織	上垣内 邦典
			木村 武則	野崎 義博
情報化委員会	竹本 忠夫	岩井屋 忠昭	幸野 昌賢	
グループ研究 委員会	西原 州康	岡 佳弘	岩田 潤一	岡本 志朗
			黒川 睦郎	立石 賀彦
			増田 宣彦	
受託委員会	岸本 実	田村 善光		
		田辺 稔		

連 載

診断士コミュニティ

随筆・見聞録『地元プロチームがあるという幸せ』

中小企業診断士 古本 健次郎

歓喜と熱狂に沸いた2014ブラジルワールドカップも、ひとまずグループリーグが終了し、スーパースターを擁しながらも敗退した各国代表はすでに帰国の途に就き、4年後を見据えたそれぞれの挑戦がまたここから始まろうとしている。



そして、わが日本代表も、期待と興奮の中アジアを代表して参戦したものの、結果はご存じの通り、後味の悪いものとなった。期待の大きかった分、その反動も大きく、この先のラウンド16以降の見どころにもあまり熱が入らなくなってしまった。

さて、いつの頃からか、私の生活の一部をサッカーが占めるようになって久しい。歳を追うごとに関心は深まり、趣味の一つとして大いに楽しんでいる。プレーヤーとしての経験が皆無であることも、のめり込む要因かもしれない。(笑)

世界共通のスポーツでもあるサッカーの醍醐味は何かと聞かれれば、まさに「素早い攻守の逆転」だと断言する。目を離せない一瞬の攻守の逆転である。それはまさにボクシングで一発のカウンターで相手を沈めてしまうのと同様、70%を超えるポゼッションを維持していても、カウンター一発で形勢は一気に逆転してしまう。更にロスタイムに残酷な悲喜劇が待っている。固唾をのんで手に汗握り観戦することになる。これこそがサッカーの醍醐味であると確信する。

そんなサッカーを愛するようになったのはなぜだろう。20年前に開幕したJリーグそして地元広島にクラブチーム「サンフレッチェ広島」があったからだだろう。衛星放送を見れば、欧州のビッグクラブで活躍するスーパースター達の華麗なプレーも見ることができるが、どうもしっくりと来ない。遠く異国の出来事だからなのだろうか。なぜか他人事なのである。

地元を本拠地として戦うクラブチームこそが一人称であり、まさに一心同体の感覚なのである。泥臭くも人間臭いプレーが目の前で見られるという、これこそが至極の贅沢でもある。

そのサンフレッチェが、苦節の時を超えてJリーグ2連覇達成という偉業を成し遂げたのだから、更に熱が帯びるのは私だけではないだろう。育成した主力選手を毎年強豪クラブに引き抜かれるという苦汁をなめ、地方の中規模クラブとしての悲哀を感じてきたからこそ、一層感慨に浸るのである。

2014シーズンはサンフレッチェだけでなく、我らがカープも地元球団として23年ぶりのリーグ優勝に手が届く位置にいる。ますます広島はスポーツを愛する者にとっての聖地として、またこの地元プロチームが地域活性化の起爆剤となってほしいと願って止まない。

そのためには、是非広島市内のその中心にサッカー専用スタジアムが建設されることに期待する。地方の人口減少が懸念される中、プロチームという経営資源を持つ広島としては、若者を惹きつけるかけがえのないシンボルになるものと確信している。

『診断士リレー訪問記』

企業内診断士の会 黒川 睦郎

岡 佳弘（おか よしひろ）氏



今回私は、共に属する企業内診断士の会で、発足時からの世話役仲間として親しくさせて頂き、豪放磊落と繊細な気配りを併せ持つ“稀代の人たらし”ぶりに感心させられることしきりの岡佳弘先生をご紹介しますと共に、その魅力の背景を明らかにしたいと思います。

岡先生は、大阪市平野区のお生まれで、幼少より岡山で育ち、昭和61年に中国電力株式会社に入社されました。同社では、主に法人向け営業や住宅会社等への電化住宅普及促進活動などの営業畑を歩んでこられ、平成13年に本社勤務（広島市）となられてからは、社員向け営業研修やカスタマーセンター設立等のお仕事に携わられ、現在は、経営企画部門でガス事業の戦略策定等のお仕事でご活躍されておられます。また、過去には、営業職として日本アイビーエム（東京都）に出向されるなど同社としては、異色のご経験もされているそうです。先生が東京の飲食店にお詳しい理由のひとつでしょうか。

先生は電気温水器販売店、住宅会社等の経営支援や営業研修講師のお仕事をされておられたときに、自身の知識やスキル不足を痛感されたとともに、パートナーとして共に活動していたプロのコンサルタントの影響を受け、中小企業診断士の資格取得を目指されたそうです。しかし、その後は業務が忙しく、なかなか纏まった時間がとれなかったことから、“塩漬け”となっておられたようですが、比較的時間に余裕がある部署に異動となったことを契機に本格的に勉強を開始され、平成22年に登録をされました。

先生ご自身の自己分析では、元来飽きっぽい性格とのことで、そのため一人で診断士のスキルを維持・向上させていく自信がなかったことや、診断士の資格を生かして、異業種交流を深めたいとの思いから、県協会入会と同時に「企業内診断士の会」の創立メンバーとして参画されたそうですが、飽きっぽさなど微塵もみせることなく創立時から現在まで同会の世話人としてご活躍されています。

また、先日の県協会総会にて、協会理事（グループ研究委員会副委員長）に就任され、活動の幅を広げておられます。診断士の活動としては、ビジネス相談会で相談員を勤めるほか、商店街診断など、企業内診断士の会が主催する実務診断に従事することで研鑽に励んでおられます。

得意分野は、お仕事のご経験から、経営企画やマーケティングとのことですが、まだまだ得意分野といえるレベルではないため、更にスキルを高めていくことが課題と言われます。

高校球児であった先生は、スポーツがお好きとのことですが、最近は、「下手なゴルフ程度しか身体を動かす機会がなく、“メタボ”に向けてまっしぐら」となっていて、いささかお悩みだとか。

先生のご趣味は旅行で、若い頃は年に3回は海外旅行に行かれて、毎年、ラスベガスで人生をかけた勝負をされておられたとのことですが、現在は、お仕事とお金の制約から、年1~2回程度の家族との温泉旅行が唯一の楽しみになっているそうです。

その他、小型船舶操縦士の資格を持っておられ、スカイダイビングや（海の）ダイビングなど、何にでも興味があればチャレンジしてみたいくなる性格だそうです。

そんな先生にとって、生涯現役として、現在の会社を退職後は、診断士の資格を生かした仕事をされることが夢とのことでした。

また、昨年、沖縄の海でジンベエザメと泳いだことに感銘を受け、世界の海をダイビング（体験）で制覇すると意気込みを語っておられます。

どうやら、仕事に診断士活動にそして空中に水中にと、興味あるものに“飛び込む”ことを躊躇されない気質をお持ちのようです。そんな岡先生の益々のご活躍をお祈りいたします。

『新入会員紹介』

上垣内 邦典（かみごうち くにのり）



平成26年4月に診断士登録しました上垣内邦典と申します。実務補習でお世話になった木村武則先生のご紹介により、平成26年6月から広島安佐商工会に勤務しております。

それ以前は印刷会社で16年ほど営業及び制作ディレクターとして広告制作等の業務に携わってきましたが、印刷業界での自分の行く末に限界を感じ退職、その後入社した会社が倒産の憂き目にあい、無職の状態から診断士試験に臨みました。

中小企業診断士資格に興味を持ったのは、前職がお客様との密着度の高い職種であり、今後と同様に顧客密着・地域密着の仕事に携わりたいとの希望を持っていたためです。広告・マーケティングに留まらないお客様への多角的な提案力を強化すると共に資格取得によって人脈を作る狙いを持っていましたが、その自分の判断が間違っていなかったことを実感しています。

現在の商工会での業務は不慣れで分からないことだらけですが、顧客密着・地域密着という意味で自分の望んだとおりの職種なのでやりがいがあります。

診断協会の中では会員研修委員会に参加させていただくこととなりました。また、商工会業務の中で他の診断士の先生方と連携する機会もあることと思います。

諸先輩方と交流を深めまたご指導をいただきながら中小企業診断士としての自らのスキルアップに努めていきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

植田 昌子（うへだ まさこ）

平成26年4月に中小企業診断士の登録をし、この度広島県中小企業診断協会に入会させていただきました、植田昌子です。現在、広島県東部の福山市で税理士事務所に勤務しており、法人・個人事業者の会計・税務申告の仕事をしています。尾道生まれの尾道育ちで、大学から12年間東京にいた以外は、ずっと尾道で暮らしています。

今の仕事に携わって16年になりますが、担当させていただく中小企業の経営者の方々のお話をお聞きし相談させていただくうちに、その努力とご苦労の大きさをひしひしと感じるようになりました。次々と変化する社会情勢や景気の中で、限られた経営資源を駆使し、模範回答のない正解を常に考え戦われている経営者の方々に対して、会計・税務の枠を超えて経営全般にわたってもっと幅広くお役に立ちたいと思うようになったのがこの資格を目指した動機です。

身近なお客様の話をお聞きする中では、やはり『ヒト』の問題に頭を悩ましている経営者が多いように思います。まだまだ駆け出しで、知識・経験不足であることは私自身痛切に感じていますが、まずは経験の長い財務の分野を土台にしつつ、モチベーション論や組織論の知識・実践ノウハウの取得に努め、また分野を広げながら中小企業診断士としての研鑽を積んでいきたいと思っています。そして女性としての感性も大切にしていきたいと思います。

お客様に喜んでいただける診断士に成長できるよう努力しますので、諸先生方どうぞご指導の程よろしくお願い申し上げます。

谷本 俊満（たにもと としみつ）

平成25年10月に中小企業診断士登録し、このたび広島県中小企業診断協会へ特別会員として入会しました谷本俊満です。

私はベーカリーのフランチャイズ本部に勤務し、西日本地区で出店や改装に関わる業務に従事しています。入社当時は工場で電気関係を中心にメンテナンス業務を行っていました。現在は店舗の工事関係を主に担当しています。

私が中小企業診断士の資格取得を目指したのは、経営全般に関わる知識を身に付けることで出店や改装を行う際によりよい計画を立てたいと考えたからです。実務補修では有意義な経験を得るとともにすばらしい先生方やメンバーと出会うことができました。これからは資格取得を通じて得た知識や経験を活かし一歩前進した活動を行っていきたくと思っています。

広島県中小企業診断協会への入会とともに企業内診断士の会へ入会させていただきました。当面は企業内診断士として現職の改善活動に取り組んでいきたいと考えています。県協会の活動に参加させていただきながら能力の向上に努めたいと考えていますので、ご指導よろしくお願いいたします。

著書紹介『企業で必要な英語コミュニケーション力を身につける』

中小企業診断士 平見 尚隆

以前、グループ研究会のお世話をさせていただいておりました平見でございます。現在、メキシコへ赴任中で自ら中小企業経営を実践中です。さて、これまでの海外企業とのビジネスや海外での生活体験をベースに、企業活動を行っていく上で必要な英語でのコミュニケーションを身に着ける考え方や方法を一冊の本にまとめました。



日本企業が国際化を加速させている中、中小企業診断士としても、海外へ進出する企業からの相談を受ける機会も増えてくるはずですが。そんな時、英語でのコミュニケーションが必須となってきます。本書は、サバイバル英語から、ビジネス英語までカバー、身近な英語を使う場面やビジネスシーンでの例をあげながらどのようにコミュニケーションをとっていったらよいかを丁寧に解説しています。ビジネスを行っていく上で必要な基本的な考え方をベースに展開していますので、英語に直接触れる必要が無い方にとっても有益な一冊になると思います。

皆様に一読いただき、感想やコメントなどいただけましたら光栄に存じます。

**1. 題名、著者、監修者、他**

企業で必要な英語コミュニケーション力を身につける

平見 尚隆 (著), 篠田 義明 (監修)、1400 円+税、229 ページ

Amazon 等インターネット書籍販売サイトや全国の主要書店にてお求めいただけます。

2. お問い合わせ先 (出版社)

ベレ出版 Tel 03-5225-4790

平成26年度 研究会活動計画

『ISO研究会』

研究会代表 栗山 琢次

1. 平成26年度の活動状況

本研究会は、ISO マネジメントシステムを有効に活用できていない ISO 導入企業を有効なマネジメントシステムに変革し、企業業績の向上に資することを目指している。研究会活動のねらいは、ISO の有効活用を指導できる診断士を育成し、効果的で適切な指導方法を研究することである。平成26年度からは、医療・介護・福祉サービス分野で進められている第三者認証を取り上げ活動している。第三者認証とは、組織外の認証機関が一定の基準に基づいて組織の業務活動を審査、認定する仕組みである。研究会メンバーは4名で専門分野は建設業、製造業、サービス業、医療の分野からなっている。

2. 活動内容の概要

「介護・福祉サービス第3者認証」への進め方としては、昨年度モデル企業を事例として使えるマニュアルを作った。これを企業の年度事業計画にて適用して運用中である。今年度は、一般的な介護・福祉施設で応用できる汎用マニュアル作りを進めている。また、それと並行して支援企業を選定して具体的に第3者認証を取得させることを目指している。広島県では、県健康福祉課が介護・福祉サービスの第3者認証を統括している。介護・サービス施設の増加や新規参入企業が増加する中で、研究会の取り組みをサービスの質、人材の確保、育成、利用者満足の向上などと共に健全経営のできる組織作り、しくみ作りのガイドとし役立てたい。

活動の周期としては、2ヶ月に1回とし、時間帯も企業内診断士が参加し易いことを基本に考えている。新しい参加者も広く募集しているので、活動に興味を持たれた方は、協会事務局までぜひご一報を！

『販路開拓研究会』

研究会代表 川上 正人

○前年度の取り組み

多忙な研究会会員が多いため、顔をあわせての例会は2回にとどまったが、実りある活動ができた。4月より偶数月にて、これまでの研究成果をもとにした研修会を5回開催した。

販路開拓支援手法をベースとした経営革新計画書、経営改善計画書の策定手法の他、財務分析や講師スキルアップなど、経営支援を行う上で最低限必要とされる内容とする。多いときで 23

名、少ないときで12名、平均17名の参加があり、本会会員の他、経営革新等支援機関の認定を受けた税理士や中小企業診断士、及び商工会、商工会議所の経営指導員にもご参加頂いた。

○今年度の取り組み

本会は、広島県の中小企業診断協会会員を中心とするが、販路開拓支援のためのノウハウを必要とされる方に広く提供するため、前年の関西地区での研修の他、今年度は東京での開催にも取り組む。このことで、販路開拓支援に有益なネットワークの形成にもつなげたい。

○販路開拓支援研修会

既に4月に終えたが、東京秋葉原にて北海道から広島を範囲とし、23名の参加を得て研修会を開催した。今年度、あと3回を予定する。参加者には、よろず支援拠点コーディネーターの他、全国本部サポーターに就任された方もあり、事業推進において、参加者は相互協力する。

○東京都協会城南支会との連携

前年に引き続き、本会より2名の会員をコンサル養成塾講師として派遣する。この塾は、今後、コンサルとして起業を目指される予定の方や企業内において技術習得を目指される方を対象とした実践的な研修会である。前年度に引き続き、全国優良商材内覧会にも協賛する。

○会員の増加

長らく6名の会であったが、昨年度3名の新規入会が得られ9名となった。今年度もあと3名程度の会員獲得を目指したい。

『建設業研究会』

研究会代表 加藤 克敏



建設業研究会が発足して3年を迎えようとしている。

発足した当時の建設業界は公共事業の削減と景気停滞のダブルパンチで建設投資額がバブル時代の約半分にまで落ち込んでおり、中小建設業は受注高確保に四苦八苦していた。

研究会で取り組むテーマもこのような経営環境の影響を受けて、中小建設業ではこれまで軽視されがちであった利益管理や工事原価管理システムの導入等が注目されるようになった。

これまで“どんぶり勘定”“成り行き経営”と悪口を言われてきた業界も厳しい経営環境に長い間晒されてやっとホンモノ経営に目覚め新たな建設業を創ろうとする兆しが見えてきた。しかし、昨年の後半からアベノミクスによる景気回復、震災復興事業に加えて、今後予定されている国土強靱化計画やオリンピック施設の整備、さらには消費税増税による駆け込み需要等民間の建設投資も活気を見せており、一見すると業界は活況を呈しているように見える。

しかし、建設現場ではヒト不足や建設資材の高騰もあり、造っても儲けが出ない等様々な問題

も出てきており楽観はできないが、久しぶりに明るい雰囲気の世界になってはいる。

それはそれで結構なことであるが、かつての高度成長期時代の護送船団方式行政が建設企業の近代化を遅らせたことと同じように、苦勞せずに与えられた潤沢な工事量は往々にして企業努力や経営改革、工事管理の工夫等を不要に感じさせるという二面性がある。

折角中小建設企業が“どんぶり勘定”や“成り行き経営”から脱却できるチャンスを見逃して、俗にいう「楽すれば楽が邪魔して楽ならず、楽せぬ楽がはるか楽々」にならなければと懸念する今日この頃である。

そうならないためにも改めて建設業研究会の今年度の活動メニューを模索してみたい。

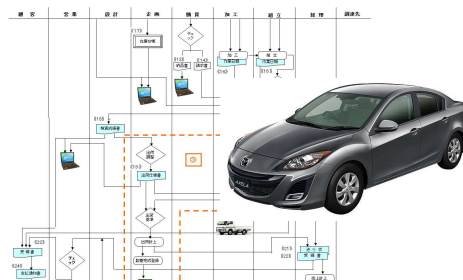
『ものづくり支援研究会』

研究会代表 岸本 実

本研究会は、昨年6月に発足し、1年が経過しました。現在の会員は、青谷義清、江川雅典、落野洋一、川角栄二、岸本実、栗山琢次、小林幸夫、田村善光、藤本彰光の9名で、バックグラウンドは、技術、営業、IT、金融と多士済々です。活動の狙いは、会員の「ものづくり診断スキルの向上」への寄与。活動のゴールは、地域のものづくりの課題の把握と対応策などについて多面的に研究し、生残り策を探っている地域の製造業への提言を行うものです。

現在、製造系診断の基本となる生産面の診断マニュアルの作成に取り組んでいます。次に、専門系（戦略・開発・IT・財務・営業など）の深堀を予定しております。更に診断マニュアルを使った製造企業の診断・提言の実践を行い、併せてマニュアルのブラッシュアップを行う考えです。

本研究会にご関心があり、参加ご希望の方は診断協会事務局に是非ご連絡ください。歓迎いたします。



『知的資産経営研究会』

研究会代表 秋井 正宏

平成25年度は、これまで当研究会で策定したフォーマットをブラッシュアップして、小規模事業者や支援機関、金融機関等に有用性が感じられ、使える支援ツールに改良する予定で取り組んだ。具体的には、業種別対応を拡充していくこととして、製造業編のアウトラインづくりに取り組み、事業者視点での活用が可能であり効率的に効果が見込めるように研究会を重ねてきたところである。製造業に精通した会員を中心に、多様な視点から活発な意見交換を行い、フォーマッ

トとして、まとまりつつある状況となった。

平成26年度は、この製造業編のツールの有効性を高めるために、企業の協力を得ながら現場での実践に取り組んで行く予定である。半年程度のスパンで実際の企業で利用するなかで、フォーマット策定に向けた新たな改善点の抽出を行い、より使いやすい形式にして行きたいと考えている。あわせて、従来から行っている「知的資産経営の啓発」について、より一層理解を深めて頂けるように引き続き取り組んで行く予定である。

『企業内診断士 診断能力向上研究会』

企業内診断士の会 森岡 進太郎

企業内診断士 診断能力向上研究会（略称：企業内診断士の会）は、4月19日にひろしま国際ホテルにて本年度の定時総会を開催した。本研究会は企業内診断士が「研鑽」、「貢献」及び、「連携」を目的として活動しているものであり、有志のグループとして発足して以来、今年で4年目となる。徐々にメンバーも増え、月一度の月例会合では活発な意見と程よい笑いが会を活気づけている。今年度は以下の全体スケジュールに沿った活動及び随時の実務診断を実施していく。

平成26年度活動日程計画			(平成26年6月23日時点)
月 日	場所	会合名称	会合内容
平成26年 4月19日	ひろしま国際 ホテル	・定時総会	・平成26年度年次総会 ・総会后懇親会
5月17日	広島市青少年 センター	・月例会合	・本年度研究テーマ(個人・グループ)の選定と発表日程調整等
6月21日	ユーストピア 中央	・月例会合	・商店街診断の報告 ・個人研究発表
7月19日	ひろしま国際 ホテル	・セミナー・研修会 ・交流会ー	・外部講師によるセミナー ・外部参加者も交えた交流会
8月16日	(広島市内) 未定	・月例会合	・個人研究発表 ・グループ研究活動経過報告
9月20日	(広島市内) 未定	・月例会合	・個人研究発表 ・グループ研究活動経過報告
10月18日	(広島市内) 未定	・月例会合	・個人研究発表 ・グループ研究活動経過報告

11月15日	(広島市内) 未定	・セミナー・研修会 ・交流会ー	・外部講師によるセミナー ・外部参加者も交えた交流会
12月20日	(広島市内) 未定	・月例会合	・個人研究発表 ・グループ研究活動経過報告
平成27年 1月17日	(広島市内) 未定	・月例会合	・個人研究発表 ・グループ研究活動経過報告
2月21日	(広島市内) 未定	・月例会合	・個人研究発表 ・グループ研究活動経過報告
3月21日	(広島市内) 未定	・月例会合	・個人研究発表 ・グループ研究活動成果発表



総会後に開催した懇親会の様子

平成26年度 委員会活動計画

『総務委員会』

総務委員長 畑井 謙一



6月7日(土)に、チサンホテル広島にて平成26年度総会・懇親会を開催した。会員、来賓ともに昨年を上回るに方々にお越し頂き、盛会となった。

理事会に関しては、年4回の開催を計画している。既に5月22日(木)に総会準備のために第1回理事会を開催した。第2回理事会は8月21日(木)、第3回理事会は11月13日(木)、第4回理事会は2月26日(木)を予定している。

この他にも必要があれば随時、臨時理事会を開催する。

中国ブロック事務連絡会議は、今年度は11月頃に鳥取で開催される予定である。

広島自由業団体連絡協議会は、今年度は7月22日と2月頃に会議が開催される予定である。また、広島自由業団体連絡協議会では、広島市との共催で11月18日(火)に第22回無料よろず相談会を広島市役所にて開催予定である。社会貢献活動として、また、中小企業診断士及び県協会の認知度向上活動として取り組んでいく。

無料のビジネス相談会を、広島市立中央図書館と福山市中央図書館で、それぞれ月1回開催している。広島市立中央図書館では毎月第2土曜日、福山市中央図書館では毎月第4土曜日に実施。経営相談会を通じて社会貢献を行うと同時に、会員への相談実務従事機会の提供を目的としている。

県内の行政官庁と中小企業支援関連機関に対し、県協会の広報誌である「診断ひろしま」を持参訪問し、より良好な関係が築けるよう働きかける。県協会及び中小企業診断士の認知度向上を図るとともに業界情報の収集に努める。

このたび総務委員会は大幅な組織改定が行われた。従来は副会長が総務委員長を兼任し、会長・副会長の直属サポート機関のような形であったが、今回、総務委員会には会長・副会長は所属しないこととなった。また同時に人数もスリム化された。今後、総務委員会はその立場と役割を整理し直しながら活動を行っていくこととなる。

『広報委員会』

広報委員長 小寺 崇之

1. 委員会メンバー

平成26年度の広報委員会は、委員長に小寺崇之、副委員長に落野洋一、委員に西村英樹、川角栄二、三本木至宏、藤本彰光の合計6名の体制で推進する。

2. 活動内容

広報委員会は、中小企業診断士の認知度向上および中小企業診断士の能力向上のために県協会が行う活動を支援することを目的とし、次の活動を行う計画である。

(1) 協会機関誌「診断ひろしま」の発行

協会・各委員会・研究会の計画や活動の紹介、スキルアップメニュー（診断助言事例、実務従事報告等）や、診断士コミュニティ（随筆・見聞録、診断士リレー訪問記、新入会員紹介、書籍出版紹介等）を掲載する。

(2) 広報活動の推進

協会の活動および取り組みについて、会員や各関係機関等に広く周知を図るため、その他広報活動を行う。具体的な活動内容については今後の委員会にて話し合いを行い決定していく。

『試験委員会』

試験委員長 小川 成洋

1. 中小企業診断士試験

中小企業診断士試験を中小企業支援法に基づく指定機関として本部より受託し、次のスケジュールで実施する。

(1) 第一次試験

平成26年8月9日・10日の2日間 広島工業大学専門学校で実施する。

(2) 第二次試験

筆記試験は平成26年10月26日(日)、口述試験は平成26年12月21日(日)に実施する。

2. 中小企業診断士実務補習

中小企業診断士実務補習は、経済産業省令に基づく登録機関事業として次のとおり実施する。

(1) 夏期コース（5日間コースのみ）

平成26年7月・9月に実施する。

(2) 冬期コース（15日間コース・5日間コース）

平成27年2月・3月に実施する。

『更新研修委員会』

試験委員長 江川 雅典

平成26年度は、日程の設定から講師の選定に至るまでの事業活動に関わる意思決定を明確にし、実り多い更新研修を目指して行動する予定である。会長の意向を尊重しつつ、委員会の意志をしっかりとご理解、ご賛同いただき、運営責任を果たしながら、参加した皆様から良い評価を受けることができるよう、委員一丸となって活動に取り組んでいきたい。また、今年度は例年お願いしているアンケートの中で、福山地区での理論政策更新研修を新たに開催する企画に対するご意見を、広く拝聴したいと考えている。理論政策更新研修を年3回とし、東部地区でも開催できれば、皆様の利便性が高まるとともに、受講人数の分散によって収容可能な会場の選択肢が増えるのではないかと期待している。ぜひ率直なご意見をお聞かせ願いたい。

今年度の理論政策更新研修は、以下のとおり2日を予定している。

第1回 平成26年7月19日（土曜日）

第2回 平成26年11月15日（土曜日）

両日ともに13時より、JAビル10階講堂にて開催

なお、7月19日の理論政策更新研修では、更新要件の必須要件である「新しい中小企業政策について」を中国経済産業局より講義いただいた後、本協会の会員でもある キャストコンサルタント株式会社の取締役 前川 晃廣氏より「中小企業の海外展開支援について」の題目で、主に中国に対する海外展開の実情をご教授いただくことになっている。

診断実務従事事業に関しては、10月及び11月の2コースを用意し、事業の案内後7月末を締め切りとして募集することになっている。10月コースは5名1班、11月コースは5名2班を予定し、合計15名の診断実務従事ができるように計画した。いずれのコースも有意義で実務に役立つよう、更新研修委員会メンバーがバックアップしていく所存である。

『会員研修委員会』

会員研修委員長 井上 明雄

1. 委員構成

本年度の会員研修委員会は、2名の継続メンバーに、3名の新メンバーが加わるフレッシュな体制となった。計5名ではあるが、プロコン、企業内診断士、中小企業支援機関職員、入会年数、実務経験、性別・年齢を含め、幅広く多彩な個性を有する委員会である。



2. 活動方針

中小企業診断士の資質及び技能の向上という本来の目的に沿った活動を推進する。研修会等の企画にあたっては、可能な限り幅広いニーズに対応することを目指す。実施については、企業内診断士などに対応した土・日の開催、実務にフォーカスした実践的な勉強会、聴くだけではないワークショップや意見交換会など、形にこだわらない研鑽の場の提供を進める。

3. 活動計画

今年度は、第1回研修会を下記の予定で行う。第2回以降については、中小企業診断士の実務における技能向上を目的とした研修会の開催を予定している。

◇ 主題『異業種からの農業分野参入セミナー』

内容 … 農業が新たなビジネス、成長産業として注目される一方で、企業が実際に農業分野に参入する際には様々な障壁（ハードル）が存在する。農業ビジネスを支援・促進する施策等を理解するとともに、参入事例を通して、農業分野に進出する上での問題点・課題への対応について研鑽を深める。

日時 … 平成26年8月19日（火）13：30～16：30

会場 … 広島市中区千田町3丁目7-47 広島県情報プラザ2F 第2研修室

講師 … 第1部 広島県農林水産局農業担い手支援課

第2部 株式会社 山中経営 代表取締役 山中 洋 氏

『情報化委員会』

情報化委員長 竹本 忠夫



平成26年度の情報化委員会は、広島県中小企業診断協会の情報発信力を強化するために次の活動を行います。

1. 情報や活動をリアルタイムに発信

主に Facebook を活用しリアルタイムに情報発信を行います。

Facebook ページの閲覧数を向上させます。

※Facebook ページに“いいね”をお願いします。

<https://www.facebook.com/JSMECA34>

2. 情報発信インフラの強化

制約の多い既存のホームページのリニューアルを検討します。

ホームページ：<http://www15.ocn.ne.jp/~jsmeca34/>

『グループ研究委員会』

グループ研究委員長 西原 州康

1. 活動方針

グループ研究委員会の活動方針は、以下の通りである。

- ・ 研究会相互のコミュニケーションを促進し、安定的な研究会活動を確立する。
- ・ 魅力ある研究会活動を支援し、成果を広く発信することで、会員相互の研鑽の場を提供し、県協会会員増加に貢献していく。



2. 平成26年度活動計画

上記活動方針に基づき、以下の活動を計画している。

- (1) グループ研究委員会開催：新体制による活動内容の確認と今後の計画を具体化する。
- (2) グループ研究会連絡会議開催：各グループ研究会の代表に集ってもらい、各グループ研究会の活動報告、今後の計画等の意見交換を行う。
- (3) グループ研究会活動報告会開催：平成26年11月に各グループ研究会の活動報告を行う。その際は、理論政策更新研修等を利用し、会員及び非会員にも広く案内を行い、研究会活動に参加希望者を増やし、研究会の活性化、県協会会員の増強を図る。
- (4) グループ研究会活動論文HP掲載：グループ研究会の活動論文をホームページで広く発信をしていく。



『受託委員会』

受託委員長 岸本 実

当委員会は県協会の受託事業の窓口として、一般社団法人化に合せて平成24年度に発足した。県協会の経営基盤強化には受託事業の拡大が必須である。そのため、昨年度に引き続き、新たな受託事業の開拓にも取り組む。平成25年度の実績、平成26年度の活動計画は以下の通りである。

1. 受託事業

(1) 継続受託事業 ～平成26年度も同様に実施予定

関係機関	内容	平成25年度の実績
(公益財団法人) ひろしま産業振興機構	・設備貸与診断・事後診断	貸与診断8件、事後診断32件
	・窓口相談	専門家派遣95回(2回/週ペース、2名)
	・技術・経営力評価業務	専門家派遣3件
広島県信用保証協会	・経営診断・改善計画	専門家派遣91件
広島商工会議所	・専門相談コーナー	専門家派遣33件(3回/月ペース、3名)

(2) 新規受託事業

- ・金融機関との連携…企業診断、企業支援について専門家派遣の取組を行う。
- ・他の士業との連携…診断協会を主体に、士業専門家と連携した受託事業を検討する。
- ・その他取組 …中小企業支援機関等の行う公募に応募し、新規受託を行う。

2. 課題解決の取組

(1) 品質の担保

顧客のニーズに合った内容・レベルのアウトプットの品質確保のため、会員研修や派遣の仕組み作りの取組を行う。

(2) 受託事業の体制整備

受託事業の更なる拡大のための、受託事業の在り方を見直し、体制整備についての検討を進める。

まとめ

『平成26年度 年間予定表』

日 付	行 事
5月22日(木)	平成26年度 第1回理事会
6月7日(土)	平成26年度 総 会
7月4日(金) ～14日(月)	夏期実務補習① (5日間)
7月19日(土)	第1回理論政策更新研修
8月9日(土) 10日(日)	中小企業診断士1次試験
8月19日(火)	第1回 会員研修
8月21日(木)	平成26年度 第2回理事会
9月12日(金) ～22日(火)	夏期実務補習② (5日間)
10月上旬	第2回 会員研修
10月	グループ研究発表会
10月26日(日)	中小企業診断士2次試験 (筆記試験)
11月13日(木)	平成26年度 第3回理事会
11月15日(土)	第2回理論政策更新研修
11月18日(火)	広島市よろず相談会
12月21日(日)	中小企業診断士2次試験 (口述試験)
1月30日(金)～ 2月9日(月)	冬期実務補習① (15日間・5日間)
2月13日(金) ～23日(月)	冬期実務補習② (15日間)
2月27日(金)～ 3月9日(月)	冬期実務補習③ (15日間)
2月上旬	第3回 会員研修
2月26日(木)	平成26年度 第4回理事会

『事務局からのお知らせ』

1. 会費納入のお願い

平成26年度の会費納入につきまして、既に振込用紙と請求書を送付させていただいております。納入期限は6月末日となっておりますので、未だ納入しておられない方は、速やかに納入していただきますようお願いいたします。

2. 地域プラットフォームにつきまして

今年度も昨年度に引き続き中小企業・小規模事業者ビジネス創造等支援事業に係る地域プラットフォーム事業を実施しております。まだ専門家登録をなされていない方は是非この機会に専門家登録をされて、大いに活動していただきますようお願いいたします。

3. 診断実務実習のお知らせ

日頃診断業務に携わる機会の少ない診断士の皆様向けに、診断手法・診断ノウハウの習得と登録更新に必要な実務従事ポイントの取得を目的とする「診断実務実習」を本年度も下記の通り実施いたします。受講を希望される方は、お早めにお申し込みください。

◇実施時期および期間

10月および11月、期間はともに6日間

実施日は原則として土日祝日（診断先企業の都合により、平日が加わる場合もあります）

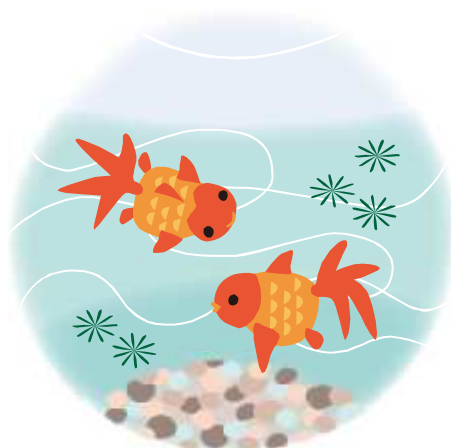
◇受講料

当会正会員・特別会員 42,000円

非会員 63,000円

◇申込締切日

平成26年7月末日



『編集後記』

本号は平成26年度を迎えた新年度号として位置付け、総会報告、各委員会および研究会の新年度における活動計画等を中心とした内容とした。また、本年度からは協会役員も一新したこともあり、新会長および副会長から今後の県協会の運営等に関する抱負についても語っていただいた。当機関誌を発行する役割を担う広報委員会についても新メンバーを迎え、新体制となった事もあり、今後は会員や各関係機関からの意見に耳を傾け、機関誌の位置付けを明確にし、掲載内容等についても随時見直しを加え発行していきたいと考えている。

本年4月からの消費税率アップに伴い、中小企業者においてはその後の業績について明暗が分かれつつある。これは税率改正という大きな環境変化への対応力の差が明暗を分けたように考える。中小企業を支援することを主たる業務とする中小企業診断士にとっても環境変化への対応は不可欠な要件である。コンサルタントとして独立をしている会員、企業に勤めながら業務で関わる中小企業を支援している会員等、様々なバックボーンを持つ会員で組織される協会であるが、会員各自が変化へ対応するための様々なスキルを身に付け、研鑽をしていくことが強く望まれる。

本機関誌が、関係機関の方々や会員各位にとって、協会事業の理解に繋がる事を願っている。

発行にあたり、ご協力下さった皆様に心よりお礼申し上げます。

(広報委員長 小寺 崇之)

表紙の写真：広島県尾道市千光寺公園からの展望 (撮影：小寺 崇之)



一般社団法人広島県中小企業診断協会会報 第71号

発行：平成26年7月15日

一般社団法人 広島県中小企業診断協会

〒730-0052

広島市中区千田町3丁目7番47号 広島県情報プラザ3階

TEL (082) 569-7338 FAX (082) 569-7336

E-mail: jsmeca34@sunny.ocn.ne.jp

発行人 会長 岸本 実

編集人 広報委員長 小寺 崇之